

| | |
|-------------------------------|---|
| 科目名 | 美術科指導法 |
| 学年 | 3 |
| 開講期 | 前期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義、演習 |
| 単位数 | 8 |
| 担当教員 | 市川治郎 |
| 授業の概要及び テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術科教育の概要や学校で行われている授業について概説する。 ・ 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「美術科指導の基礎的能力の育成」を目標とする。 ・ 学校における美術科教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。 ・ 美術科の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。 ・ 教材研究や授業分析などを通して、具体的な指導技術を習得する。 |
| 学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連 | 社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 美術教育の概要（我が国における美術教育の歴史） 02 現行学習指導要領美術編の解説と今後の方向性 03 美術科経営と授業の実際（美術科経営計画、年間指導計画、授業の構成要素） 04 教材研究（1）表現分野（絵画の教材分析、指導案作成） 05 授業研究（1）表現分野（絵画の模擬授業、事前事後検討） 06 教材研究（2）表現分野（彫刻の教材分析、指導案作成） 07 授業研究（2）表現分野（彫刻の模擬授業、事前事後検討） 08 教材研究（3）表現分野（デザイン及び工芸の教材分析、指導案作成） 09 教材研究（4）表現分野（デザイン及び工芸の模擬授業、事前事後検討） 10 授業研究（3）表現分野（映像メディア表現の教材分析、指導案作成） 11 授業研究（4）表現分野（映像メディア表現の模擬授業、事前事後検討） 12 教材研究（5）鑑賞分野（鑑賞の教材分析、指導案作成） 13 授業研究（5）鑑賞分野（鑑賞の模擬授業、事前事後検討） 14 評価計画（評価方法、通知表及び指導要録の評価） 15 美術館等との連携（地域の人材、施設設備の活用） |
| 成績評価基準 | 受講姿勢：30%、課題の成績：50%、模擬授業の成績：20%を総合して評価する。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り。 |
| テキスト（教科書） | 中学校学習指導要領解説（美術編）、高等学校学習指導要領解説（芸術編、音楽編、美術編） 中学校美術教科書、高等学校美術教科書 テキスト及び教科書の購入については、別途指示する。 適宜、資料プリントを配付する。 |
| 参考書・参考資料等 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要 望・事前準備 | 学習効果を上げるため、テキスト等の当該箇所を参照し、授業内容に関する予習及び復習を行うこと。 |
| 実務経験を活かし た授業 | 高等学校教員として美術教育に携わった経験のある教員が、美術科指導法について講義及び演習を担当する。 |

| | |
|-----------------------|---|
| 科目名 | 教職入門 |
| 学年 | 2 |
| 開講期 | 前期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 竹田進吾 |
| 授業の概要及びテーマ | 教職の意義、教員の役割、教員の職務・サービス・養成・研修、教職の採用・現状、チームとしての学校に関する理解を深めて、教職に必要な資質・能力とは何かを考える。そのうえで、自分はなぜ教職を目指すのか、どのような教師になりたいのかを考える。 |
| 達成目標 | 教職の意義、教員の役割、教員の職務・サービス・養成・研修、教職の採用・現状、チームとしての学校等、教職に関する基礎的知識を理解して、教職に必要な資質・能力とは何かを考えられる。また、自分はなぜ教職を目指すのか、どのような教師になりたいのかを説得的に説明できる。 |
| 学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連 | 社会人基礎力/構想力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 ガイダンス 02 学校とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。 03 学校とは何か2…学校に関する法制・現状・チームとしての学校を学ぶ。 04 学校とは何か3…学校論に関して自分の考えをまとめ、発表する。 05 教師とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。 06 教師とは何か2…教員の職務・サービス・研修・身分保障等に関する法制、現状を学ぶ。 07 教師とは何か3…教師論に関して自分の考えをまとめ、発表する 08 教師の仕事…授業 09 教師の仕事…学級経営 10 教師の仕事…生徒指導、校務分掌、部活動指導 11 体罰とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。 12 体罰とは何か2…体罰等をめぐる問題状況 13 教員養成課程の仕組み、教員採用試験等、教職に就くうえでの関門について 14 なぜ教職を目指すのか…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。 15 まとめ 16 期末試験 ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。 |
| 成績評価基準 | 期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点(授業態度・貢献度・通常提出物等)40%により総合的に決定する。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト(教科書) | 適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配布プリントは教科書同様の扱いで管理すること。 |
| 参考書・参考資料等 | そのほか、適宜指示する。 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | |
| 実務経験を活かし た授業 | |

長岡造形大学 シラバス 2020

| 科目名 | 教育原理 |
|-----------------------|--|
| 学年 | 2 |
| 開講期 | 後期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 竹田進吾 |
| 授業の概要及びテーマ | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を、講義・グループワークで学ぶ。 |
| 達成目標 | 教育思想の基本的事項、子どもを取り巻く歴史、学校改革の歴史、教師の歴史等に関する基礎的知識を身につけた上で、それらの思想・歴史的理解をもとにして、現在の教育に関する問題状況を説明できる。 |
| 学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連 | 社会人基礎力/構想力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 ガイダンス 02 教育とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。 03 教育とは何か2…教育の本質論を学ぶ。 04 子どもとは誰か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。 05 子どもとは誰か2…子ども観、子どもに関する法制・現状を学ぶ。 06 子どもとは誰か3…子どもを取り巻く歴史 07 西洋教育思想史 08 日本教育史1…古代・中世・近世の学校 09 日本教育史2…近代公教育の成立と展開 10 日本教育史3…戦後民主主義教育の理念と展開 11 教師の歴史…近現代日本を例に 12 教育勅語の歴史と現在 13 社会教育の理念と現状1…博学連携の現状 14 社会教育の理念と現状2…博物館の開放 15 社会教育の理念と現状3…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。 16 期末試験 ただし、授業の進捗により順番・内容を一部変更する場合がある。 |
| 成績評価基準 | 期末試験の得点 30%、最終提出課題の得点 30%、平常点 (授業態度・貢献度・通常提出物等) 40%により総合的に決定する。全体として 60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト(教科書) | 適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配布プリントは教科書同様の扱いで管理すること。 |
| 参考書・参考資料等 | 今井康雄編『教育思想史』(有斐閣アルマ、2009年) そのほか、適宜指示する。 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | |
| 実務経験を活かし た授業 | |

長岡造形大学 シラバス2020

| | |
|-----------------------|---|
| 科目名 | 教育心理学 |
| 学年 | 2 |
| 開講期 | 前期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 小嶋かおり |
| 授業の概要及びテーマ | 教育心理学とは、教育に関わる諸問題について心理学的知見を応用して解決を試みたり、教育に関わる諸現象を心理学的に解明し効果的な教育方法を見出そうとする学問である。本科目では、様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的理論の基礎、主体的学習を支える動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方および発達の特徴との関連づけ、幼児・児童および生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学修活動を支える指導の基礎となる理論を学ぶ。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、説明できる。 ・主体的学習を支える動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方、および発達の特徴との関連づけを理解し、説明できる。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学修活動を支える指導の基礎となる理論を理解し、それらについて自分の考えを述べることができる。 |
| 学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連 | 社会人基礎力/構想力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 教育心理学の理念と目的 02 教育の科学的研究 哲学と科学、科学としての心理学 03 発達(1) 遺伝か環境か、成熟と学習 04 発達(2) ピアジェ、エリクソン 05 学習(1) 古典的条件づけ、オペラント条件づけ 06 学習(2) 発見学習、有意味受容学習 07 学習(3) エキスパートシステム、ディーブラーニング 08 言語 チョムスキー、ヴィゴツキー 09 記憶 エビングハウス、記憶モデル 10 思考 アルゴリズム、ヒューリスティック、ブレインストーミング 11 知能 知能テスト、社会情動スキル 12 動機づけ 外発的動機づけ、内発的動機づけ 13 集団 集団特性、リーダーシップ、グループダイナミクス 14 教育評価 偏差値、ルーブリック評価、ピグマリオン効果、アンダーマイニング効果 15 学習の振り返り 理解度の確認とまとめ |
| 成績評価基準 | 授業中に行う小課題 60%、理解度の確認のテスト 20%、まとめのレポート 20% なお、成績評価の前提条件として、出席率が 2/3 を下回る場合は、単位を与えません。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト(教科書) | 「教育課程コアカリキュラムに対応した教育心理学」守一雄、松本大学出版会、1200 円+税 |
| 参考書・参考資料等 | 資料は、適宜授業中に配付します。 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | 毎回、授業の中でグループワークを行い課題提出してもらいます。欠席しないようにしてください。 |
| 実務経験を活かし た授業 | |

長岡造形大学 シラバス2020

| | |
|-----------------------|--|
| 科目名 | 教育制度論 |
| 学年 | 3 |
| 開講期 | 前期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 竹田進吾 |
| 授業の概要及びテーマ | 日本における現在の教育制度を、多面的に検討する。講義中心ではあるが、一部グループワークも取り入れる。 |
| 達成目標 | ①日本における現在の教育制度に関する基礎的知識を、総合的に身につける。 ②現在の教育に関する問題状況を、制度面に注目して説明できる。 |
| 学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連 | 社会人基礎力/構想力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 ガイダンス 02 公教育とは何か 03 教育法制 04 教育行政 05 学校経営と学校評価(学校と地域との連携(地域学校協働活動等)を含む) 06 学校安全への対応 07 教育課程経営 08 教職員の職務と服務 09 児童・生徒の管理 10 就学前教育制度 11 特別支援教育制度 12 教員養成・研修制度 13 社会教育行政 14 学校給食制度 15 教育制度改革の現在、まとめ 16 期末試験 ただし、授業の進捗により順番・内容を一部変更する場合がある。 |
| 成績評価基準 | 期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点(授業態度・貢献度・通常提出物等)40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト(教科書) | 河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』(福村出版、2017年) 適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配布プリントは教科書同様の扱いで管理すること。 |
| 参考書・参考資料等 | そのほか、適宜指示する。 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | |
| 実務経験を活かした授業 | |

長岡造形大学 シラバス 2020

| | |
|-------------------------------|--|
| 科目名 | 教育課程の編成と実際 |
| 学年 | 2 |
| 開講期 | 前期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 竹田進吾 |
| 授業の概要及び テーマ | 教育課程の意義、思想と構造、編成、カリキュラム開発、教育内容の歴史の変遷、学力論の現在、評価の方法等に関する基本的理解を深める。 |
| 達成目標 | ①教育課程の意義、思想と構造、編成、カリキュラム開発、教育内容の歴史の変遷、学力論の現在、評価の方法等に関する基本的理解を深める。 ②現在の教育課題を、教育課程に関する基本的知識をもとに考えることができる。 |
| 学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連 | 社会人基礎力/構想力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 ガイダンス 02 学習指導要領をグループワークでまとめる。 03 学習指導要領をグループで発表する。 04 教育課程とは何か1…教育課程とは何か、思想と構造 05 教育課程とは何か2…編成、経営、カリキュラム開発 06 教育課程編成の方法 07 カリキュラムマネジメント…意義、カリキュラム評価の考え方 08 近代日本における教育課程の変遷 09 戦後学習指導要領の変遷1…経験主義、系統主義、構造主義 10 戦後学習指導要領の変遷2…ゆとり、新学力観、生きる力、確かな学力 11 新学習指導要領の特質 12 学力とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。 13 学力とは何か2…現在の学力論を学ぶ 14 授業を考える…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。 15 まとめ 16 期末試験 ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。 |
| 成績評価基準 | 期末試験の得点 30%、最終提出課題の得点 30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として 60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト(教科書) | 適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配布プリントは教科書同様の扱いで管理すること。 |
| 参考書・参考資料等 | 水原克敏『新訂 学習指導要領は国民形成の設計書 その能力観と人間像の歴史の変遷』（東北大学出版会、2018年） そのほか、適宜指示する。 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要 望・事前準備 | |
| 実務経験を活かし た授業 | |

| | |
|-----------------------|---|
| 科目名 | 特別支援教育 |
| 学年 | 3 |
| 開講期 | 前期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義・実習 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 市川 治郎、非常勤講師 |
| 授業の概要及びテーマ | 特別支援教育とインクルーシブ教育システムの制度や内容を比較し、これからの教育の在り方を説明する。次に、発達障害や虐待など、多様な特性について説明する。さらに、通常の学級におけるユニバーサルな対応と段階的な対応、合理的配慮を説明し、個別計画作成のための知識とスキルを学べるようにする。そして、通級指導教室から特別支援学校までの特別な場での教育を解説する。 授業構成は、はじめに到達目標を示し、解説、最後に自己評価させる。そして、発展課題を提示し、次回までの提出課題とする。なお第1回から第7回までの授業内容には、障害はないが特別的教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を含む。 後半は、特別支援学校における介護等体験実習（2日間）を実施する。 |
| 達成目標 | 特別支援教育の理念と制度、特別な教育の場を理解し、特別支援教育の実践に必要な知識を習得すること。さらには、将来のインクルーシブ教育システムの構築に必要な教員の資質と校内体制について理解すること。なお、特別支援教育の関連領域として、虐待や非行などの教育問題を含める。 |
| 学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連 | 社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 特別支援教育とインクルーシブ教育システムの制度と内容(長澤)【講義】 02 発達障害等多様な実態とその特性・特性への対応(長澤)【講義】 03 身体障害と知的障害の特性と特別支援学校の教育(長澤)【講義】 04 通常の学級における特別支援教育の在り方(長澤)【講義】 05 学習のユニバーサルデザインと合理的配慮(長澤)【講義】 06 特別な対応、段階的な対応、通級指導教室・特別支援学級(長澤)【講義】 07 個別的教育支援計画・個別の指導計画・校内システム・地域連携(長澤)【講義】 08 定期試験 09 介護等体験事前指導(学校組織、校務分掌、服務規律、守秘義務、実習記録等) (市川)【実習】 10 介護等体験事前指導(学校組織、校務分掌、服務規律、守秘義務、実習記録等) (市川)【実習】 11 特別支援学校における介護等体験実習(市川)【実習】 12 特別支援学校における介護等体験実習(市川)【実習】 13 特別支援学校における介護等体験実習(市川)【実習】 14 特別支援学校における介護等体験実習(市川)【実習】 15 特別支援学校における介護等体験実習(市川)【実習】 16 特別支援学校における介護等体験実習(市川)【実習】 17 特別支援学校における介護等体験実習(市川)【実習】 18 特別支援学校における介護等体験実習(市川)【実習】 19 特別支援学校における介護等体験実習(市川)【実習】 20 特別支援学校における介護等体験実習(市川)【実習】 21 介護等体験事後指導(実習記録等に基づく自己課題の明確化演習)(市川)【実習】 22 介護等体験事後指導(実習記録等に基づく自己課題の明確化演習)(市川)【実習】 23 まとめ(市川)【実習】 |
| 成績評価基準 | 授業での学習姿勢10%、課題30%。定期試験60% |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り。 |
| テキスト(教科書) | 授業で使用するパワーポイントの資料は事前に配付する。 |
| 参考書・参考資料等 | 改訂版「はじめての特別支援教育」(柘植雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子 編集 有斐閣) |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | 学習効果を上げるため、テキスト等の該当箇所を参照し、授業内容に関する予習及び復習を行うこと。 |
| 実務経験を活かした授業 | 特別支援学校教員として特別支援教育に携わった経験のある教員が、特別支援教育について実習を担当する。 |

長岡造形大学 シラバス2020

| | |
|-------------------------------|--|
| 科目名 | 道徳指導法 |
| 学年 | 2 |
| 開講期 | 後期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義、演習 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 市川治郎 |
| 授業の概要及び テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校及び高等学校における道徳の概要や、学校で行われている授業について概説する。 ・教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳指導の基礎的能力の育成」を目標とする。 ・学校における道徳教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。 ・道徳の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。 ・学習指導要領に示される道徳の趣旨や意義を踏まえた授業について理解する。 |
| 学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連 | 社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 道徳教育の概要（我が国における道徳教育の歴史） 02 現行学習指導要領における道徳の解説と今後の方向性 03 道徳授業の実際（年間指導計画、授業の構成要素） 04 教材研究（1）（道徳の授業構成、教材研究） 05 教材研究（2）（道徳の教材研究、教材分析） 06 教材研究（3）（道徳の指導方法、指導案検討） 07 授業研究（1）（道徳の模擬授業、事後検討） 08 教材研究（4）（道徳の授業構成、教材研究） 09 教材研究（5）（道徳の教材研究、教材分析） 10 教材研究（6）（道徳の指導方法、指導案検討） 11 授業研究（2）（道徳の模擬授業、事後検討） 12 教材研究（7）（道徳の授業構成、教材研究） 13 教材研究（8）（道徳の教材分析、指導方法、指導案検討） 14 授業研究（3）（道徳の模擬授業、事後検討） 15 道徳の評価（評価方法、通知表及び指導要録の評価） |
| 成績評価基準 | 受講姿勢：30%、課題の成績：50%、模擬授業の成績：20%を総合して評価する。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り。 |
| テキスト（教科書） | 中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）、高等学校学習指導要領解説（総則編） 中学校道徳教科書（1・2・3） テキスト及び教科書の購入については、別途指示する。 適宜、資料プリントを配布する。 |
| 参考書・参考資料等 | |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要 望・事前準備 | 学習効果を上げるため、テキスト等の該当箇所を参照し、授業内容に関する予習及び復習を行うこと。 |
| 実務経験を活かし た授業 | 高等学校及び中学校で校長を経験した教員が、道徳指導法について講義、演習を担当する。 |

| | |
|-----------------------|---|
| 科目名 | 総合的な学習の時間及び特別活動指導法 |
| 学年 | 2 |
| 開講期 | 後期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 市川 治郎、竹田 進吾 |
| 授業の概要及びテーマ | 総合的な学習の時間について、歴史、意義、教育課程上の役割、現状と課題、実践例（年間指導計画、単元計画）、評価方法、授業設計の基本を学ぶ。特別活動について、歴史、目的、意義、評価方法、学校行事・学級活動（ホームルーム活動）・生徒会活動の内容と指導方法を学ぶ。 |
| 達成目標 | 総合的な学習の時間についての歴史、意義、教育課程上の役割、現状と課題、実践例（年間指導計画、単元計画）、評価方法を理解している。特別活動について、歴史、目的、意義、評価方法、学級活動（ホームルーム活動）・学校行事・生徒会活動の内容と方法を理解した上で、生徒の人間形成にとって望ましい実践的指導力を身につける。 |
| 学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連 | 社会人基礎力／構想力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 ガイダンス（竹田・市川） 02 総合的な学習の時間の概要…学習指導要領解説をグループワークでまとめる（竹田・市川） 03 総合的な学習の時間の概要…学習指導要領解説のまとめをグループで発表する、補足説明（竹田・市川） 04 総合的な学習の時間…歴史、意義、教育課程上の位置、現状と課題の講義（竹田） 05 総合的な学習の時間…実践例の紹介、評価の方法（市川） 06 総合的な学習の時間…グループワークで授業を構想する（竹田・市川） 07 総合的な学習の時間…構想した授業を発表する、討議（竹田・市川） 08 特別活動の概要…学習指導要領解説をグループワークでまとめる（竹田・市川） 09 特別活動の概要…学習指導要領解説のまとめをグループで発表する、補足説明（竹田・市川） 10 特別活動…歴史、目的、意義、学級活動（ホームルーム活動）の内容と指導方法の講義（市川） 11 特別活動…学級活動のうち学校給食をめぐる問題状況と指導の方法の講義（竹田） 12 特別活動…学校行事の内容と指導方法の講義（竹田） 13 特別活動…生徒会活動の内容と指導方法の講義（市川） 14 特別活動…指導計画の作成（竹田・市川） 15 特別活動…評価方法の講義、まとめ（竹田・市川） 16 定期試験 ただし、授業の進捗により順番・内容を一部変更する場合がある。 |
| 成績評価基準 | 期末試験の得点40%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）30%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト（教科書） | 関川悦雄、今泉朝雄編『特別活動・総合的学習の理論と指導法』（弘文堂、2019年） 中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編、特別活動編、平成29年7月告示、文部科学省） |
| 参考書・参考資料等 | 適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配布プリントは教科書同様の扱いで管理すること。 高等学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編、特別活動編、平成21年7月告示、文部科学省） |
| 用具 | そのほか適宜指示する。 |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | |
| 実務経験を活かし た授業 | |

長岡造形大学 シラバス2020

| 科目名 | 教育方法・技術 |
|-------------------------------|---|
| 学年 | 3 |
| 開講期 | 後期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 竹田進吾 |
| 授業の概要及び テーマ | 教育方法に関する理論、教育方法の歴史、教科書・ICT等の活用法、評価方法を理解するとともに、パネルシアター教材の実作を行う。 |
| 達成目標 | 授業を設計・実践していく上で必要な教育方法に関する知識を理解し、学習指導案作成、模擬授業実践に取り組むことができる。 |
| 学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連 | 社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 ガイダンス 02 教科書を活用するとはどういうことか 03 黒板はどのように利用すべきか 04 パネルシアター教材の実作1…パネルシアターとは何か 05 パネルシアター教材の実作2…グループワークでパネルシアター教材を構想する 06 パネルシアター教材の実作3…グループワークでパネルシアター教材を作製する 07 パネルシアター教材の実作4…実作したパネルシアターを発表・実演する 08 学習指導案作成法 09 評価とは何か…学校教育において、生徒をどのように評価するのか 10 ICTを活用した授業1…ICTを活用するとはどういうことか 11 ICTを活用した授業2…ICTを活用した授業の紹介 12 教育方法の観点を重視した授業設計…模擬授業の準備 13 教育方法の観点を重視した授業設計…模擬授業、討議 14 教育方法の歴史と理論 15 まとめ 16 期末試験 ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。 |
| 成績評価基準 | 期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点(授業態度・貢献度・通常提出物等)40%により総合的に決定する。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト(教科書) | 適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。 |
| 参考書・参考資料等 | そのほか、適宜指示する。 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要 望・事前準備 | |
| 実務経験を活かし た授業 | |

| | |
|-----------------------|--|
| 科目名 | 生徒・進路指導 |
| 学年 | 2 |
| 開講期 | 前期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 伊藤敦美 |
| 授業の概要及びテーマ | 生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動です。生徒指導及び進路指導・キャリア教育、教育相談の意義と課題について学習し、児童生徒理解や校内における指導体制、問題行動への指導についても学びます。 |
| 達成目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の意義、教育課程における生徒指導の位置づけと重要性、集団指導・個別指導の方法原理、生徒指導体制の基本的な考え方を理解する 2 すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する 3 児童生徒の抱える生徒指導上の課題の形態及び定義、外部の専門家や関係機関等との校内外の連携を含めた対応の在り方を理解する 4 進路指導・キャリア教育の意義、教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけと指導の在り方、指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解する |
| 学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連 | 社会人基礎力を養う授業 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 01 教育課程における生徒指導の位置づけ及び各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義と重要性 02 集団指導・個別指導の方法原理及び生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違い 03 学級担任、教科担任その他の公務分掌上の役割と学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な生徒指導の取組の在り方 04 児童生徒全体への生徒指導（1）基礎的な生活習慣の確立・規範意識の醸成 05 児童生徒全体への生徒指導（2）自己存在感を育む場や機会の設定 06 生徒指導に関する法制度：校則・懲戒（停学及び退学を含む）・体罰 07 生徒指導上の課題の定義及び対応の視点（1）いじめ 08 生徒指導上の課題の定義及び対応の視点（2）不登校・暴力行為 09 今日的な生徒指導上の課題及び関係機関との連携：インターネット、児童虐待 10 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ及び学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 11 進路指導・キャリア教育の指導体制及び家庭や関係機関との連携 12 職場体験活動を核としたカリキュラム・マネジメント 13 ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義及び留意点 14 キャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオの活用 15 キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践 定期テスト |
| 成績評価基準 | 受講姿勢：20%、授業で課す課題とレポート 30%、学習理解の確認（テスト）50% 原則として、出席回数が授業回数の2/3以上であること。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト（教科書） | 生徒指導提要、文部科学省、教育図書、276 円+税 教育・保育の基礎を学ぶ—子どもの育ちを支える理論と実践一、岩崎保之、国際文献社、2000 円 |
| 参考書・参考資料等 | <p>中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示、文部科学省） 「いじめ問題」から授業・学校改革を考える（齋藤勉著、明治図書） 生きる力を育む生徒指導（宮下一博、河野莊子編著、北樹出版） キャリア教育基礎論（藤田晃之、実業之日本社） 進路指導・キャリア教育の理論と実践（吉田辰夫、篠翰著、日本文化科学社） 他に必要な図書や資料は授業で指示します。</p> |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | 授業では、自分の考えを文章化する、発表する、他の受講生と討論するといった活動を取り入れます。考えをまとめたり、発表したり、討論するためには基礎となる知識が必要ですから、日頃から教育に関するニュースなどに目を通す習慣を付けておいて下さい。 |
| 実務経験を活かした授業 | |

| | |
|-------------------------------|--|
| 科目名 | 教育相談 |
| 学年 | 3 |
| 開講期 | 前期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 講義 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 伊藤敦美 |
| 授業の概要及び テーマ | 教育相談は生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。この授業では、学校における教育相談の意義と課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論、教育相談の方法（カウンセリングの意義、理論や方法に関する基礎的知識を含む）、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組や連携の必要性等をテーマとして取り上げる。理論を学び技法を習得するために、授業は講義とシミュレーションの両方の形態で実施する。 |
| 達成目標 | 1 学校における教育相談の意義と理論を理解する。 2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 3 教育相談の具体的な進め方、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。 |
| 学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連 | 社会人基礎力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 学校における教育相談の意義と課題 02 自己理解（1）アイデンティティの形成 03 自己理解（2）防衛機制 04 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論 05 児童生徒の不適応・問題行動の意味とその発見 06 学校教育におけるカウンセリングマインドとその必要性 07 カウンセリングの基本姿勢 08 カウンセリングの方法（1）カウンセリングの基礎的技法 09 カウンセリングの方法（2）カウンセリングの基礎的技法を使用したシミュレーション 10 カウンセリングの方法（3）シミュレーションについてのグループ討議 11 学校における教育相談体制と進め方 12 教育相談の計画及び評価 13 個別の課題に対する教育相談の進め方（1）いじめ・不登校 14 個別の課題に対する教育相談の進め方（2）虐待・非行 15 学校と家庭・地域・専門機関との連携 定期テスト |
| 成績評価基準 | 受講姿勢：20%、授業で課す課題とレポート 30%、学習理解の確認（テスト）50% 原則として、出席回数が授業回数の2/3以上であること。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト（教科書） | 新カリキュラム対応教育・保育の基礎を学ぶ 岩崎保之編著 国際文献社 2000 円 生徒指導提要 文部科学省 教育図書 290 円 |
| 参考書・参考資料等 | 中学校学習指導要領 文部科学省 高等学校学習指導要領 文部科学省 学校カウンセリング基本訓練 上地安昭 北大路書房 2097 円 他に必要な図書や資料は授業で指示します。 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要 望・事前準備 | 授業では、自分の考えを文章化する、発表する、他の受講生と討論するといった活動を取り入れます。考えをまとめたり、発表したり、討論するためには基礎となる知識が必要ですから、日頃から教育に関するニュースなどに目を通す習慣を付けておいて下さい。 |
| 実務経験を活かし た授業 | |

長岡造形大学 シラバス2020

| 科目名 | 事前・事後指導 |
|-----------------------|---|
| 学年 | 4 |
| 開講期 | 通年 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 実習 |
| 単位数 | 1 |
| 担当教員 | ◎竹田進吾、市川治郎 |
| 授業の概要及びテーマ | 教育実習は、実際の教育現場を体験することにより、教育職に必要な実践的能力を身につける貴重な機会である。事前においては教育実習について理解を深め、意欲を持って積極的に実習に取り組むことができるように、総合的な点検を行う。事後においては客観的に実習を振り返る。 |
| 達成目標 | 教育実習について理解を深め、意欲を持って積極的に実習に取り組むことができる。事後においては客観的に実習を振り返り、冷静に反省できる。 |
| 学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連 | 社会人基礎力/構想力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 ガイダンス 02 教育実習の心得…意義・目的・取り組む姿勢・実習校理解・勤務・サービス・実習態度・守秘義務等 03 実習日誌の作成法 04～07 道徳教育に関する授業設計…模擬授業と討議 08～12 美術科教育に関する授業設計…模擬授業と討議 13 実習事後指導、礼状作成、報告書作成、報告会準備 14 実習事後報告会…全員の発表、質疑応答 15 まとめ ただし、授業の進捗により順番・内容を一部変更する場合がある。 |
| 成績評価基準 | 実習事後報告会の発表・発表用資料の得点 40%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）60%により総合的に決定する。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト(教科書) | 適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。 |
| 参考書・参考資料等 | そのほか適宜指示する。 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | 生徒と教職員そして保護者と直に関わり、実践力を身につける教育実習は厳しいものである。教職課程で学んだ知識や技能を確かなものにするだけでなく、生活のリズムを整えることや組織の中で働く者としての礼儀や態度を身につけるなどの準備をしておく必要がある。 |
| 実務経験を活かした授業 | |

| | |
|-----------------------|---|
| 科目名 | 教育実習 I |
| 学年 | 4 |
| 開講期 | 通年 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 実習 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | ◎竹田進吾、市川治郎 |
| 授業の概要及びテーマ | 自己開拓した学校、または実習協力校において教育実習を行う。実習校の教育課程との関係をもとに、2週間の実習計画を立て、教科指導、教科外指導を実習する。実習日誌をつけて日々振り返り実践力を身につけるとともに、授業見学、授業実践、研究授業を行うことにより、実践的な教材研究・授業設計の方法を学ぶ。 |
| 達成目標 | ① 教職課程において学んできた教職・美術に関する知識・理解・技能をふまえて、中学校の現場で実習に積極的に取り組むことができる。 ② 教育職に就く者として、美術科教育、道徳教育、総合的な学習の時間等の実践を行うことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。 ③ 教育職に就く者として、学級経営、生徒指導、学校行事等の重要性を理解した上で、意欲的に取り組むことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。 |
| 学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連 | 社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業 |
| 授業計画 | 実習校の指導教員と打ち合わせのうえ、連続した2週間において以下の内容を実習する。 ①教科指導として、授業見学、教材研究、授業、研究授業を行う。 ②教科外指導として、総合的な学習の時間、学級活動、給食指導、各種学校行事への参加、生徒指導等を行う。 |
| 成績評価基準 | 実習中の態度、教科指導、生徒指導等の教員としての適性、学級経営、校務分掌等に関する理解と能力、勤務状況等に関する実習校による評価を参考にして総合的に評価する。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト(教科書) | 実習日誌 |
| 参考書・参考資料等 | 教職課程で使用してきた各テキスト等 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | 生徒・教職員・保護者と直に関わり、実践力を身に付ける教育実習は、長期間に及ぶ厳しいものである。教職課程で学んだ知識や技能の復習をする、生活のリズムや体調を整える、組織人としての礼儀や態度をわきまえコミュニケーション力を高めるなどの準備を行う。 |
| 実務経験を活かし た授業 | |

| | |
|-----------------------|---|
| 科目名 | 教育実習Ⅱ |
| 学年 | 4 |
| 開講期 | 通年 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 実習 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | ◎竹田進吾、市川治郎 |
| 授業の概要及びテーマ | 自己開拓した高等学校において教育実習を行う。実習校の教育課程との関係をふまえて、2週間の実習計画を立て、教科指導、教科外指導を実習する。実習日誌をつけて日々振り返り実践力を身につけるとともに、授業見学、授業実践、研究授業を行うことにより、実践的な教材研究・授業設計の方法を学ぶ。 ただし、中学校で教育実習Ⅰ・Ⅱを行う場合は、3週間の実習とする。 |
| 達成目標 | ① 教職課程において学んできた教職・美術に関する知識・理解・技能をふまえて、高等学校の現場で実習に積極的に取り組むことができる。 ② 教育職に就く者として、美術科教育・総合的な学習の時間等の実践を行うことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。 ③ 教育職に就く者として、学級経営、生徒指導、学校行事等の重要性を理解した上で、意欲的に取り組むことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。 |
| 学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連 | 社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業 |
| 授業計画 | 実習校の指導教員と打ち合わせのうえ、連続した2週間において、以下の内容を実習する。 ①教科指導として、授業見学、教材研究、授業、研究授業を行う。 ②教科外指導として、総合的な学習の時間、ホームルーム活動、各種学校行事への参加、生徒指導等を行う。 |
| 成績評価基準 | 実習中の態度、教科指導、生徒指導等の教員としての適性、学級経営、校務分掌等に関する理解と能力、勤務状況等に関する実習校による評価を参考にして総合的に評価する。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト(教科書) | 実習日誌 |
| 参考書・参考資料等 | 教職課程で使用してきた各テキスト等 |
| 用具 | |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要望・事前準備 | 生徒・教職員・保護者と直に関わり、実践力を身に付ける教育実習は、長期間に及ぶ厳しいものである。教職課程で学んだ知識や技能の復習をする、生活のリズムや体調を整える、組織人としての礼儀や態度をわきまえコミュニケーション力を高めるなどの準備を行う。 |
| 実務経験を活かした授業 | |

| | |
|-------------------------------|---|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高） |
| 学年 | 4 |
| 開講期 | 後期 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 授業形態 | 演習 |
| 単位数 | 2 |
| 担当教員 | ◎竹田進吾、市川治郎 |
| 授業の概要及び テーマ | 教育実習での経験をふまえて、グループワーク、討議を中心とした学習指導案作成、模擬授業、課題作成、現地調査等を行う。これらにより、教育職に必要とされる総合的な実践力を養成する。 |
| 達成目標 | 学校教育（中等教育）とは、生徒の総合的な人間形成の場であるといえる。生徒の個性に配慮したわかりやすい授業実践、親身の学級経営、校務分掌への積極的対応等が、現在の日本社会から要請される教師像である。このような教師を目指していく上で、何が自分には足りないのか、どのような種類の努力が必要とされるのか等を明確化する。教職課程で学んできた知識・理解・技能、現場の実践力を振り返り、教科指導、学級経営、生徒指導、校務分掌等を問題なく実践できる力を身につける。 |
| 学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連 | 社会人基礎力/構想力を養う授業 |
| 授業計画 | 01 ガイダンス 02 教育実習の振り返り1…美術科授業について討議する 03 教育実習の振り返り2…道徳授業について討議する 04 教育実習の振り返り3…学級経営、生徒指導等について討議する 05 校外学習1…地元公立中学校を訪問して、授業見学、現職教員との話し合い等を行う 06 校外学習2…振り返り 07 美術科教育の授業設計…模擬授業と討議 08 道徳教育の授業設計…模擬授業と討議 09 総合的な学習の時間に関する課題の明確化 10 学級経営に関する課題の明確化 11 生徒指導に関する課題の明確化 12 校務分掌に関する課題の明確化 13 保護者対応に関する課題の明確化 14 部活動に関する課題の明確化 15 教職課程全体の振り返り、まとめ ただし、授業の進捗により順番・内容を一部変更する場合がある。 |
| 成績評価基準 | 最終提出課題の得点40%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）60%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。 |
| 出席・遅刻の基準 | 履修ガイドの通り |
| テキスト(教科書) | 適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。 |
| 参考書・参考資料等 用具 | 履修カルテ。教職課程で使用してきた各種学習指導要領解説。そのほか適宜指示する。 |
| 履修制限等 | |
| 履修希望者への要 望・事前準備 | 教育実習前の自己課題、教育実習後に見えてきた自己課題を意識して、演習する。座学で得た知識では、学校現場で通用しない場合が多い。教師としての実践力を身に付けるために、個々の得手不得手を認識し、日ごろから補っていく取組が求められる。 |
| 実務経験を活かし た授業 | |